妙を以て十師と爲し、別に惠妙法師を以て、百濟寺の寺主と爲す。此の十師等、宜しく能く衆僧を敎へ導きて、釋敎を修行ふこと、要ず法の如くせしむべし。凡そ、天皇より伴造に至るまで、造る所の寺、營ること能はざる者は、朕、皆助け作らむ。今、寺司等と寺主とを拜さし、諸寺を巡り行きて、僧尼、奴婢、田畝の實を驗へて、盡に顯し奏せ。

とあつて、推古天皇の三寶興隆の詔が、更に一段と、强化せられたものと、拜することが出來る。

（十七）緯書（第十六章の二參照）

拾遺の（一）にも記して置いたように、緯書とは、經書に對する稱で、經義に依托して、未來の事、又は吉凶禍福の豫言を記したものである。『尙書緯』『春秋緯』『易緯』『禮緯』『樂緯』『詩緯』『孝經緯』（以上を七緯といふ）『論語緯』『河圖緯』『洛書緯』の十種がある。恐らくは、西漢の末頃に起つたものらしい。東漢の光武帝、最も讖緯を好まれたので、大儒鄭玄までが、その註解を書くといふほどの、盛行振りであつた。しかし、孔安國や賈逵などは、これを排斥して居る。六朝、宋の大明中、始めて圖讖を禁じ、隋の煬帝は、使を四方に遣はし、その書を搜尋して、皆これを焚かしめたため、今日に傳はるものは、皆、完本でない。

緯書の說くところ、畢竟、天人感應、又は陰陽五行等の說に本づき、卜筮、鬼神の思想を加味して、以て、天文、地理、災祥、變異を說明しようとし、辛酉革命の說なども生れ、それが日本に採り入れられて、神武建國元年が正當のものでないといふことを、今更力說しなければならないほどの、過誤を犯すことにもなつたのである。

高麗僧慧慈曰

於二日本國一有二聖人一。曰二上宮豐聰耳皇子一。固天縱。以二玄聖之德一。生二日本之國一。苞二貫三統一。纂二先聖之宏猷一。恭二敬三寶一。救二黎元之厄一。是實大聖也。（日本書紀）

10330

重惡卽以勢力折伏。輕惡卽以道力攝受。息惡修善。卽聖化久住。聖化住世。卽善來惡去。（勝鬘經義疏）

一乘是一體三寶之因。一體三寶是一乘之果。欲以果一體爲況因一也。（同上）

常住身爲佛寶。此法身能爲物軌則。自爲法寶。又此法身則能與理和合。亦爲僧寶。（同上）

（聖德太子正傳）
定價金七拾圓

昭和廿三年二月十日印刷
昭和廿三年二月十五日發行

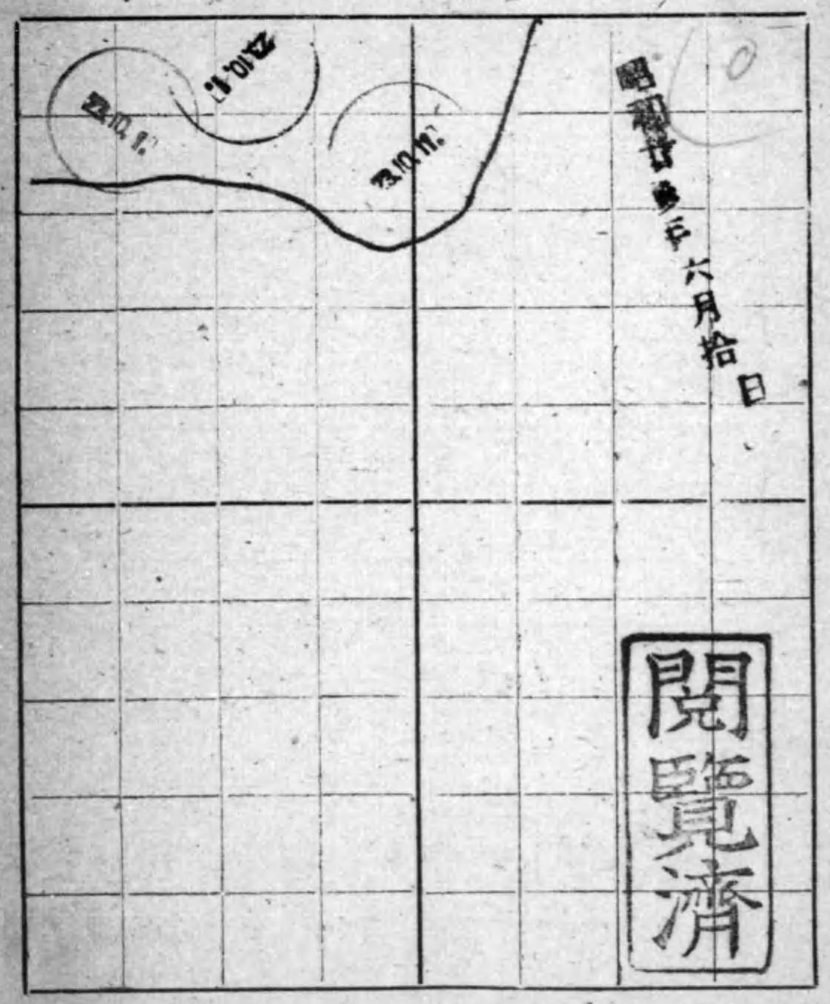
著者　東京都武藏野市三鷹町北野六百八十三番地　高嶋米峰
發行者　東京都千代田區神田錦町一丁目十六番地　三樹彰
印刷者　東京都中央區入舟町一丁目十一番地　新井修平
印刷所　東京都中央區入舟町一丁目十一番地　電新堂印刷所

發行所　東京都千代田區神田錦町一丁目
【振替貯金口座東京四九九一番】　明治書院
電話神田（25）二二四七番　二二四八番　二二四九番

配給元　東京都千代田區神田淡路町二丁目九番地　日本出版配給株式會社

日本出版協會會員番號A一一三〇〇七番

年　月　日 364



終